コラム

「日本の伝統を守る会」のこと

NPO 法人 シビルＮＰＯ連携プラットフォーム
代表理事 **山本 卓朗**

会社勤めを終えて社団法人や NPO 法人に関わることが多くなった。その多くはシビル NPO 連携プラットフォームを含めて土木や鉄道の技術系であり、自分のキャリアの延長線上にあるからもう一つ新鮮味に欠けるのはやむを得ない。その一方で、表題の「日本の伝統を守る会」は JR 東日本の元幹部が立ち上げ、活動の中核を鉄道マンが占めている一般社団法人ではあるが、参加するにつれて多くの別世界の人との交流も生まれ、どんどん楽しさが増していくのはうれしいことである。この法人の活動領域は「日本社会が古来、長年にわたり形成してきた日常生活の慣習や、道徳、芸能、工芸から政治、経済に至るまで、先人たちが綿々と培ってきた伝統をしっかり受け継ぐ」ことをめざし、「歴史と伝統文化を訪ねる旅」や「伝統文化こころ塾」の開催、また震災チャリティを兼ねた「歌舞伎鑑賞会」などを精力的に実施している。この法人の活動が自分の専門とかけ離れた趣味の領域かというとそうでもないのである。例えば、赤穂四十七士の討ち入りルートをたどって、本所の吉良邸跡から泉岳寺まで歩いたが、江戸から今日までの街の変遷を実感したし、私にとっては土木史の勉強にもなっている。

ついでながら話を土木史に広げると、実は土木の世界では大学でも土木史の研究などは大変マイナーで、東大名誉教授の高橋裕先生の談によれば「土木学会で土木史研究委員会を立ち上げようとしたときに、“工学に歴史は必要ない”といわれ大変苦労した」と述べておられる（土木学会誌 2016．4 特集土木史研究の昨今）。しかし東日本大震災で 1000 年前の貞観津波が議論になったように、シビルエンジニアリングの本質を理解するためには、ローマ時代までさかのぼる必要があるわけで、歴史研究を抜きにして考えられないし、歴史を学問体系の中にしっかり位置づけることで深みと楽しさが増すのも実感できる。

このような話を CNCP と無理に結び付けるつもりはないが、無報酬で NPO などサードセクターに関わろうとするシニアエンジニアにとっては、楽しくない活動には参加意欲が湧かないのではないか。そう考えると、NPO/NGO、事業化、ソーシャルビジネス、どれをとっても説明が必要で、ソーシャルキャピタル（社会関係資本）に至っては、しゃべっている本人すらよくわかっていないなどどうも楽しさに欠けるのである。

スタートから２年を経過した当 NPO としては、しっかり中間支援組織としての目標を見定めつつも、しゃにむに頑張るだけではなくて、いかに楽しい活動にするかについても大いに知恵を絞っていかなくてはと考える次第である。